## 平成30年度 学校評価(総括評価表)

重点課題	重点目標	評価指標	評	価		学校関係者評価
◆子どもたちの個性や能力に応じた自発的な学びを促し,これからの社会を生きぬく力を身に付けさせる教育を推進	<中・高等部> ・卒業後に向けて、人との関	・生徒主体の学部集会を年間7回以上実	評価指標による達成度	自己評価	総合評価	(学校関係者の意見)
する。	上の向上をめざす。	・総合的な学習の時間に、実態に応じて グループや個人による中高合同の発表会 を年間5回以上実施する。			(所見)	
		・校外へ出て、学校周辺の人と関わる学 習を年間5回以上実施する。				
		活動計画	活動計画の実施状況			
		・入学式や卒業式、また長期休業中の生活などに関する学部集会において、生徒が主体となって計画や進行を行う。				
		・総合的な学習の時間に、個人またはグループで、進路学習(2回)、人権学習(1回)、防災学習(2回)、学習(1回)についての発表会を実施する。				
		・総合的な学習の時間や実態別のグループ学習を通して戸外での散策や防災オリエンテーリング、買い物学習などを行い、年間を通して学校周辺の人と積極的に関わる活動を計画して実施する。				
	<特別活動課>	評価指標	評価指標による達成度	自己評価	0	
	童生徒の自主的活動の推進に  つなげる。 	・一年間の様々な学校行事(運動会、学校祭、児童生徒会役員選挙等)において、計画、準備、運営等にあてる児童生徒会の開催回数を増やすことによった、児童生徒が活発に意見を出す機的、児童生徒会役員がよりことで、となるでは、に見童生徒が活動の中心となる学校行事にする。その児童生徒会役員会の別に行事にする。15回以上とする。間の開催目標回数を15回以上とする。				
		活動計画	活動計画の実施状況			
		・運動会や学校祭等の各行事において, 事前準備を見通しを持って早めに進め, 計画的に行うことで,時間的にゆとりを 持ち,児童生徒の意見をじっくり聞きな がら,充実した児童生徒会役員会が開催 できるように努める。				
	<研究課>	評価指標	評価指標による達成度	自己評価		
	・子どもたちの個性や能力に 応じた実践を推進する。	・個別の指導計画を作成するにあたって、手だての欄に子どもたちの個性や能力に応じた合理的配慮等に関する記載が 6割を超える。				

I	<b>I</b>	
	活動計画	活動計画の実施状況
	・個別の教育支援計画様式3における合理的配慮の手だてを個別の指導計画に生かすために特別支援教育課と合同で職員研修を行う。	
	・合理的配慮についての共通理解を図る ため、人権教育課及び特別支援教育課と 連携をする。	
	・教務課と連携し、ケース会等において、合理的配慮について確認する機会を設ける。	
<人権教育課>	評価指標	評価指標による達成度 記評
・児童生徒の実態や興味関心 に応じた学習活動を通して人 権意識の向上を図る。	・年に1回「人権月間」を設け、児童生徒の実態に応じて作成した作品を展示、公開する。実施後のアンケートにおいて、「人権意識が向上した」との回答を7割以上得る。	
	活動計画	活動計画の実施状況
	・徳島県の人権月間である12月に「人権月間」を設ける。	
	・各教科・領域において、人権に関する詩、 作文及びポスターなど児童生徒の実態に 応じて作成した作品を募集する。	
	・募集した作品を「人権月間」に展示及び公開し、人権意識の向上と啓発活動を行う。	
	・実施後、教職員と児童生徒に対して、「人権月間の取組」や「人権意識の向上」等についてアンケートを実施する。	
<情報視聴覚課>	評価指標	<b>評価指標による達成度</b>
童生徒のニーズに即したICT教	・個別の指導計画において、個性や能力に応じた自発的な学びを豊かにするためのICT教材や支援機器等に関する記載が 6割を超えるようになる。	
	活動計画	活動計画の実施状況
	・学部のケース会において,児童生徒の 能力に応じたICT教材や支援機器等の活 用に関する情報交換等を行う。	
	・ICT教材や支援機器等の活用に関する 研修会を実施する。	

## 平成30年度 学校評価(総括評価表)

●数別の本学校、特色ある子 (特別が変換質率) (存体・健康電話・日本の大学 (特別が変換を) (保護・日本の大学 (特別が変換を) (特別の変換を) (特別の変	重点課題	重点目標	評価指標	評	価		】
透動計画の実施状況   「一枝の可能はおいて、様式3(こついて全 教育に共通理解を図る。	◆魅力ある学校,特色ある学校をめざし保護者や地域・関	< 特別支援教育課> ・個別の教育支援計画様式3 (実態把握表)において,「合 理的配慮」の視点から支援の	・「身体・健康面」「学習面」「社会生活面」において、合理的配慮の観点から支援の手立てを考え、作成することが各々	評価指標による達成度	自己評価		(学校関係者の意見)
・ 技内の研修において、様式3について全 教員に共通理解を図る。 ・ 技術3の作成後、学等のケース会で 支援の手立て(合創的配慮)について確 記していく。 ・ 想談本で株式3について、保護者と確 認をする。 ・ 記録、一 保護者とは、保護者という。 ・ 公司を発表して、保護者という。 「本の一本の一本の一本の一本の一本の一本の一本の一本の一本の一本の一本の一本の一本						(1)1967	
教育に失過理解を図る。 ・様は3の作成後、各学部のケース会で支援の手立て(各型的配慮)について確認していく。 ・整数等で検式3について、保護者と確認をする。 ・ とくしま教育の日に係る公開授業を参加者にアンケートを取り、							
文様の手立て(合理的配慮)について確認していて、 ・ 懇談等で様式3について、保護者と確認をする。							
「大きくしま教育の日に係る公開授業をとおして、保護者や地域・関係機関に対して理解を発きをとおして、保護者や地域・関係機関に対して理解を発きをという。   「一般の一般である」とができる。   「一般の一般である」とができる。   「一般の一般である」とができる。   「一般の一般である」とができる。   「一般の一般である」とができる。   「一般の一般である」とができる。   「一般の一般である」とが、かった放理後等ディサービスの事業者にも実内をしいただけるようにして、少しでも多くの方に参加していただけるようにして、少しでも多くの方に参加していただけるようにして、少しても多くの方に参加していただけるようにして、少しても多くの方に参加していただけるようにして、少しても多くの方に参加していただけるようにして、少しても多くの方に参加していただけるようにして、少しても多くの方に参加していただけるようにして、少しても多くの方に参加していただけるようにして、少しても多くの方に参加していただけるようにする。   「学校間交流   「学校間交流   「学校間交流   「学校間交流   「学校間交流   「学校間交流   「学校の大連の   「学校の大連の   「学校の大連の   「大連の   「学校の大連の   「大連の			支援の手立て(合理的配慮)について確				
・とくしま教育の日に係るや 開候業をとおして、保護者や 地域・関係機関に対して理解 密発を図る。  - 公開授業の参加者にアンケートを取り、学校や授業の様子などがよくわかった をとの回答を7割以上得ることができる。  - 活動計画の実施状況 - ・従来の家内先に加え、ホームページに ※内を載せたり、これまで案内していなかった成様体等イイサービスの事業をに もま何するようにして、少しでも多くの 方に参加していただけるようにする。  - 野価指標 - ・児童の実施に応じた交流及 び共同学書を計画的・継続的に に実施することで、児童の科 ・児童の考及び大や付え性の向上 と、高秋に東での有五項解を ある。 - 交流及び共同学書を表している様子をボームページに 掲載することで、社会にプロレスに対して にも様子をボームページに 掲載することで、社会にプロレスに対した。 ・ 大変及び共同学書を表している様子をホームページに 「機力で変速のであれたというな、 ・ でであるびまにあっているが表が、 - 大きでは、社会にプロレスを目的に - トード・「楽しく活動できた」「能島支援 とにプロマ変速のとがよくわかった」の回 をがそれぞれ8割以上となる。 - ・ 一下、「楽しく活動できた」「能島支援 をがそれぞれ8割以上となる。 - ・ 一下、「※日、どあいできた」「能島支援 をがそれぞれ8割以上となる。 - ・ 一下、「本しく活動できた」「配入支援 ・ 「表動の様子等を在間5回小学部交流コーナーに掲示する。							
開接業をとおして、保護者や 地域・関係機関に対して理解 整発を図る。    近畿計画   近畿計画の実施状況   近畿計画の実施に応じた。   近畿計画の実施状況   近畿計画の表述はたり、これまで案内していなかった類は要と   近畿中では、一方に参加していただけるようにする。   「野価指標   「学校間交流」   近畿の実態に応じて直接交流を年間4   「学校間交流」   近畿の実態に応じて直接交流を年間4   「学校間交流」   近畿の実態に応じては直接交流を年間4   「学校間交流」   近畿の実態に応じては直接交流を年間4   「会議の表述を対象を表述する。   本校の教員が交流校において出前授業を存間1 回以上実施する。   本校の教員が交流校において出前授業を存間1 回案をする。その後の交流及び大同学習を実施している様子をホームページに掲載するととで、社会に対して変流のできたり、観表するとで、「大会に対して変流のできた」で、「発して活動できた」で、「最近の大きなどの大学で表述と対して変流をしていまなくわかった」の回答が表述といった。「一十一に掲示する。   正述の理解・啓発を推進する。   正述の理解・容差を描述する。   正述の理解・容差を描述する。   正述の理解・を表述の理解・表述を表述の理解・表述を表述の理解・表		<教務課>	評価指標	評価指標による達成度	自己評価		1
・従来の案内先に加え、ホームページに案内を載せたり、これ事で案内していないなかった放課をフィナービスの事業者にも案内するようにして、少しでも多くの方に参加していただけるようにする。    ・児童の実態に応じた交流及び共同学習を計画的・継続的に実施することで、児童の解析を深める。   ・交流及び共同学習を指進している様子をホームページに掲載することで、社会に対している様子をホームページに掲載することで、社会に対して交流及び共同学習を推進している様子をホームページに掲載することで、社会に対して交流及び共同学習を指している様子をホームページに掲載することで、社会に対して交流及び共同学習をがそれ、8割以上となる。   ・一方に「楽しく活動できた」「鳴島支援・学校の表達のことがよくわかった」の回答がそれ、8割以上となる。   ・一方に「海によるとのとがよくわかった」の回答がそれ、8割以上となる。   ・一方に「海によるとのとがよくわかった」の回答がそれ、8割以上となる。   ・一方に「海によるとのとがよくわかった」の回答がそれ、8割以上となる。   ・一方に「海によるとの様子等と指していた」の回答がそれ、8割以上となる。   ・一方に「海によるとの様子等と関係を対していた」の回答がそれ、8割以上となる。   ・一方に「海によるとの様子等とを間 5 回小学部交流コーナーに掲示する。   「居住地校交流」・交流及び共同学習の実施にあたり、相手校と交流内容の検討を行い、計画的に		開授業をとおして、保護者や 地域・関係機関に対して理解	・公開授業の参加者にアンケートを取り、学校や授業の様子などがよくわかったとの回答を7割以上得ることができ				
案内を載せたり、これまで案内していなかった放課後等デイサービスの事業者にも案内するようにして、少しでも多くの方に参加していただけるようにする。			活動計画	活動計画の実施状況			
・児童の実態に応じた交流及び共同学習を計画的・継続的に実施することで、児童の実態に応じて直接交流を年間4 中、児童の実態に応じて直接交流を年間4 中、門様交流を年間1 回以上実施する。と、「一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一			案内を載せたり、これまで案内していなかった放課後等デイサービスの事業者に も案内するようにして、少しでも多くの				
び共同学習を計画的・継続的 [学校間交流] に実施することで、児童の経験領域の拡大や社会性の向上と、両校児童の相互理解を深める。 ・交流及び共同学習を実施していて直接交流を年間4 ・交流及び共同学習を実施していて直接交流を年間4 ・本校の教員が交流校において出前授業を年間1回実施する。その後の交流及び共同学習実施時の相手校児童へのアンケートで、「楽しく活動できた」「鴨島支援・共同学習や本校に対して交流及び共同学習や本校についての理解・啓発を推進する。 ・活動の様子等を年間5回小学部交流コーナーに掲示する。 ・活動の様子等を年間5回小学部交流コーナーに掲示する。 ・活動の様子等を年間5回小学部交流コーナーに掲示する。 ・活動の様子等を年間5回小学部交流コーナーに掲示する。 ・活動の様子等を年間5回小学部交流コーナーに掲示する。		〈小学部〉		評価指標による達成度			1
・交流及び共同学習を実施している様子をホームページに掲載することで、社会に対して交流及び共同学習や本校についての理解・啓発を推進する。  「活動の様子等を年間5回小学部交流コーナーに掲示する。  「居住地校交流」・交流及び共同学習の実施にあたり、相手校と交流内容の検討を行い、計画的に		び共同学習を計画的・継続的に実施することで、児童の経験領域の拡大や社会性の向上と、両校児童の相互理解を深	[学校間交流] ・児童の実態に応じて直接交流を年間4 回,間接交流を年間1回以上実施する。				
ている様子をホームページに 掲載することで、社会に対し て交流及び共同学習や本校に ついての理解・啓発を推進す る。			【を年間1回実施する。その後の交流及び∥				
る。		ている様子をホームページに 掲載することで、社会に対し て交流及び共同学習や本校に	ートで、「楽しく活動できた」「鴨島支援 学校の友達のことがよくわかった」の回答がそれぞれ8割以上となる。				
・交流及び共同学習の実施にあたり、相 手校と交流内容の検討を行い、計画的に			・活動の様子等を年間5回小学部交流コ				
			・交流及び共同学習の実施にあたり、相 手校と交流内容の検討を行い、計画的に				

[ホームページ] ・交流及び共同学習時の活動の様子等 を、年間5回以上ホームページに掲載する。		
活動計画  [学校間交流] ・両校の交流担当者間で連携を密にして計画的に実施する。1学期に3回,2学期に1回直接交流を,作品展やおたより等の間接交流を適宜実施する。		
・5月に、交流担当者が相手校に出向いて授業をすることで、本校や小学部の児童についての理解を深める。その後で、本校の児童の興味関心や現状に応じた交流及び共同学習を行うことにより、お互いを意識したり理解し合ったりすることができるようにする。		
・活動の様子や作品等をまとめ、学部の 交流コーナーに掲示して校内に紹介す る。また、運動会や学校祭等の行事では、 地域や来場者への広報に活用する。		
[居住地校交流] ・対象児童や保護者の希望を基に、相手校と交流及び共同学習を実施する行事や教科等や授業内容の検討を行い、計画案を作成して実施する。		
[ホームページ] ・年間を通して、計画的に交流及び共同学習の様子をホームページに掲載して、 社会に広報していく。		